

自然の通詞・鼓童

鼓童にはいつも叩きのめされる。
どう言ったらいいか。

叩きのめされるとしか言い様がない。

人間は本来、自分の体内にあるエネルギーで生きている生命体である。科学技術がどんなに進もうと、どんなに社会が進歩しようと我々が最後に振り所に出来るのは、己の体の中にある魂の熱量、肉体のエネルギー、それしかないと思っている。

世の中はどんどん便利便利と、安易な軽薄へと進んで行くが、便利とは人が自分のエネルギーの消費量をどの位減らすことができるかという、いわばサボることの指針である。文化さえもその風潮に流され、浅薄な涙や笑いに惑わされて真の感動を見失っていることが情けない。鼓童の演奏に心ゆずられるのは、そうした現代の汚れた風の中で、常に澄み切った原始の響きで魂の琴線をゆすぶってくれるからだ。

僕は最近日本各地の古木を求めて巡礼をしている。

木は無口である。何も語らない。

だがそう思うのは人間の浅はかさで、実は木たちには無限の言葉がある。人は不幸にして声と言語というものを修得し、それを唯一のコミュニケーションの手段であると錯覚した為に樹木のささやきを聴こうとしないが、人の一生の数倍、十数倍を生きてきた樹木には、それだけの分量の知性と感性の積み重ねが、溢れんばかりに蓄積されている筈だ。そこにけもの皮を張り、魂と肉体のバチで叩く時、木たちの言葉は無限の響きとなって、僕らの心にこれまで味わったことのない新鮮な感動をもたらしてくれるのだ。

勿論そこに前提としてあるものはバチを叩く者たちの鍛えぬかれた魂と肉体。僕の愛する鼓童の仕事は、太鼓を通しての、いわば神聖なる自然の通詞なのである。

11月の京都での演奏を、今から僕はわくわくと待っている。



撮影：松木直俊

倉本聰

脚本家

1935年生まれ。東京大学文学部美学科卒業後、ニッポン放送入社。63年、シナリオ作家として独立。77年北海道富良野市に移住。84年役者とライターを養成する「富良野塾」を創設。代表作に『前略、おふくろ様』『北の国から』『やすらぎの刻〜道』等。2006年より「C・C・C富良野自然塾」を主宰し環境保全に力を注ぐ。近年は、緻密な点描で森の樹を描き、心で聴いた樹の声を詩文にして掛け合わせた「点描画」の新しい表現に鋭意挑戦中。

CLIP

スペシャル動画 2本公開中！

桂米團治「おぺらくご」の特別動画を一挙公開！

今年6月に予定していました「桂米團治 春秋座特別公演」が、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により残念ながら中止となりました。そこで、楽しみにしておられた皆さまに「おぺらくご」の過去5作品「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」「新版・フィガロの結婚」「魔笛」をダイジェスト版で配信しております。存分にお楽しみいただけたら内容です。お家でご鑑賞いただき、来年「ドン・ジョヴァンニ」リニューアル版の上演をどうぞご期待ください！



5分で魅せます春秋座！ 紹介動画

本格的な歌舞伎とオペラが上演できる「春秋座」の魅力をご紹介します動画が完成しました。花道、廻り舞台、鳥屋、オーケストラピットまで駆け足でご紹介！ぜひご覧ください。

「演じる高校生」関連企画 おうちでワークショップ、舞台芸術アーカイブ『開演を待ちながら』も公開中。こちらも併せてご覧ください。劇場 HP <http://k-pac.org>